



# 時蘇林

- 目次
- 論説及研究  
境内及神苑改造に就て
- 青森大林区管内に於ける森林労働
- 隨筆  
温帯林雜語  
西都より
- 文苑  
關東の旅  
和歌
- 通信  
滿洲より  
赤井より
- 彙報  
會員異動其他

大正八年十月廿五日 號十二百第 日五廿月十年八正大  
 明治四十四年四月十六日 行發 每日期 日五廿月十年八正大  
 第三種郵便物認可 日十月六四十四治明

## 論説及研究

### 境内及神苑改造に就て

大坪時治

普天の下、率土の濱、相悲しみ悲みて、先帝陛下の大喪に遭ひ紅淚滂沱涙痕未だ其あとと絶たざる十年にして、歐洲にありてはバルカンの一煙火は全土に渡りて大禍亂を來し、流血杵を標はずの大慘劇を産み、其餘波は思想變革てふ、世界人類のあらゆる階級に對し、人心の天動亂を惹起せしむるに至れり。

即ち露の過激思想一度宣傳せらるゝや忽ち全露を風靡し、更に米の？ W、W 其思想を加味すとか、或は英の鐵道罷業に關係ありとか、其傳播蔓延の徵候はんどして覆ふべからざるの秋に會せり。

竊て我國情を見るに、屢々讀書階級に不良思想幻影の浸透しつゝ、おりとが聞く、思ふに此の思想の幻影なるによりてまだしもの幸福なり、一度本思想を我が國に輸入せられんか、三千年來由緒あり光輝ある國體は瓦解せられ、今日の社會制度は根本より破滅を來し、千歳悔ゆるも其悔や及ぶべからざるの慘劇を演せらるゝに至るべし。

吾人茲に於てか、外來思想を迎ふるに活眼を以て國民性に可否の辨別を明にし、其長を輸し其否を排し、所謂外尊内卑の偏を避け、大なる自覺と努力を以て新來思想の同

化と由緒ある國基の錢場に發奮せざるべからず。

抑々我が國民は家族制に立脚し且是を以て世界に誇る國民なり、されば上陛下の威徳を無限に尊び、下國民は彼此相倚り相濟け共に俱に相享樂し、國家の生存を完うせしめざるべからず、余は茲に於て神社尊崇上境内及び神苑改造に就き大なる熱望を諸氏に訴へんとす。

そも神社尊崇は皇室尊崇の根源たるは莖才の余輩が愚辯の口熱を俟たず、多衆周知の處に屬し蛇足を添ふるに要なし。

然れ共今日全國各神社佛閣を訪詣するに、其の尊嚴崇高真に精神に透徹して、神秘幽邃無限の思ひに感銘する神社佛閣幾許かある。

落花深きに説く老翁は繪葉書賣りの狡爺と遷り、女禁制の面影は松籟と聞く三味の響き、阿彌陀より光る寄附金の高札、八重七重古きに誇る昔の宮も紅白の交りの色の新らしき毒々しさ、人集れば金づくにて拜觀せしむる金びかの社寺、思ひ思へば思ひ半に過ぎざると云ふも過言に非ざるを覺ゆ、之時代思潮の然らしむる處か將又余輩の寡見寡聞なる故にか。

先づ余輩が尊嚴神秘真に透徹せる尊威に感したるは、神武の陵と熱田の宮、及び伊勢桃山の御陵に參詣せし時にありて僅に五六指を屈するのみ、此は何んの爲めぞ、其の因つて來る因縁や多々之あるも事神社

に關し畏れ多ければ多くを語らじ。唯一事余をして忌憚なく云はしめよ。一、神社構成上幽邃神秘の一大要素の缺陥と人爲的境内の不自然。見よ宮と云へば森々たる森を追想せし時代に於ける神社尊崇思想、所謂神威の有り難き幾許なりしかを、噫吾人をして更に一言を發せしめよ、昔の信仰は精神的なり今日の信仰は形式的なり、今日に於ては迷信なりと一擧のもとに拒けられんも、彼の石に觸れば死ぬ、此の岩に腰すれば痛むと云ひし、實に此の如きは一片の迷信に過ぎざるも、亦當時神社崇拜の如何に高かりしかは之を以て想像するに難しとせず。然るに現代に在りては木材の大欠乏の結果森林の立木は過伐に流れ更に加ふるに亂伐は益々木材の大欠乏大騰貴を來し此の間に乘じて無意識利我の輩は惜むべき神苑周囲の立木を伐倒し、果ては進みて苑内に及ぼし、或は自然に枯死する立木も其補植に意を用ひず遂に今日見る威嚴幽邃の處極めてうすき殺風景の社苑を見るに至れり。是實に吾人の慨嘆に絶へざる處にして、かくては風教の訓道途に迷ふの時に非ざるかを思はしむると共に、祖先崇拜の念慮日に薄れ國民思想に一大悪化を及ぼすの缺陷を來すを怖る。嗚呼國家の前途を慮ふ諸氏よ、君國の譽を愛する諸氏よ、庶幾へば立つて以て神聖にして尊き神苑の嚴さを、露店の商賈輕薄な

る青樓の巷に遠ざくると共に益々其の神苑の擴張を畫策し進んで流木たる流水の自然美中に、奧まれる宮居の宮殿と化せしめ其の神秘いや益々自然林造成に努められん事を擧筆に及び熱望止まざるなり。青森大林區管 森林労働 (承前) 千村 吉雄

第四節 労働者ノ使役方法 凡ソ社會は共同生活ヲ持ツモノナル以上其處ニ使フ人ト使ハル、人ノ二者ノ生スルハ蓋シ當然ノ事實ナリ、況ンヤ一ツノ事業ヲ中心トシテ多數ノ人間ノ相集マル場合ニ使フ人ト使ハル、人ノ生スルハ勿論ノコト、云ハサルベカラズ、然シテ此場合使ハレル人ガ多數ニシテ使フ人ノ方ガ少數ナルコトハ、秩序ノ維持乃至其他ノ理由ニ依リテ當然生ジ來ル理ナルモ此レニ伴フテ少數ノ使フ人ガ其位置ノ優越ナルカ爲メ總テノ點ニ於テ秀テ多數ノ使ハル、人ガ其位置ノ低級ナルカ爲メニ總テノ點ニ於テ劣レルモノナリト思惟スル習慣ニ陥リ易キ事ハ、或ハ已ムヲ得ザル現象ナルベシ、茲ニ於テ、此ノ不平等ヲ不都合ナリトスル觀念カ多數ノ使ハルベキ人々ヲシテ其團體即チ多數ノ勢力ヲ唯一ノ力トナサシメ少數ノ使フ人々ニ反抗スルノ事實ヲ惹起シ易キ事ハ近頃頻々トシテ吾々ノ耳目ニ觸ル、社會現象ニ依リテモ知ルコトヲ得ベシ、此レハ時代ノ趨勢トシテ必然起ルヘキ現象ニシテ殊ニ我國民ノ

如ク多年封建制度ノ下ニ置カレ權勢ニ屈服シ來タレル國民ニ於テハ其反動トシテ對等自由ノ思想ヲ以テ使フ人ニ對抗シテ争フニ至ルハ亦已ムヲ得サルコト、云フベシ。以上ハ一般労働者ニ非ニ監督者ノ現時ニ於ケル趨勢ナルモ、比較的智識程度ノ低級ナル山間ノ森林労働者ニアリテハ未ダ此ノ如キ現象ノ見ルヘキモノナキモ、今後監督者並ニ労働者タルヘキモノハ共ニ自覺シテ各々自ラ慎ミ事ニ當ル覺悟ナカルヘカラズ、由來斯種森林労働者ハ嚴ナレバ抗シ寛ナレバ促シ監督者ノ使役上甚困難ヲ感ズル所ナリ以下労働者ノ使役方法ニ就テ注意スヘキ點ヲ揚ゲン 1 次第ニ規則正シキ労働時間ヲ守ラシムルコト 一定ノ労働時間ト一定ノ休憩時間ト與ヘテ仕事ヲナサシメ從來ノ自墮落ナル時間ニ改革ヲナシ古來ヨリノ習慣ノ一ツヲ茲ニ打破スルコト然シナカラ此等舊慣ノ打破ハ長日月ヲ費シテ次第ニ此規律的労働ニ慣レシムルコトヲ要ス何ントナレバ古來彼等労働者ノ生活ハ絶對的自由開放主義ニシテ休マントセバ休ミ食ハント欲セバ食ヘリ談セント思ヘバ談セリ而シテ此風習タルヤ新ラシキモノニモアラス又薄弱ナルモノニモアラス故ニ此レカ矯正ヲ一時ニセントスルコトハ容易ノ業ニアラスシテ殆シト不可能ノコトニ屬ス元來此等風習ハ長キ年月ノ間ニ根底強ク練

ヘラシタルモノニシテ下等ナル程、無學ナル程、凡テニ於テ頑固ナルベシ、彼等ノ意思ノ發作ハ事業上大反響ヲ起スモノニシテ、馬車馬ノ如ク常ニ使役サレツ、アルモ尙監督者ノ目ヲ盜ミ、休マント欲ス、而シテ其頭ニハ一種強固ナル結合方ノ養成サレツ、アルモノニシテ、人夫ハ時ニ觸レ動モスレバ同盟罷工ヲ企テント欲ス、明日ノ生活ニ困難スルコトヲモ省ズシテ敢テコレヲ行ハントス、同盟罷工ハ労働者自分ニトリテモ大ナル打撃ナルノミナラズ、サテハ資本主ノ大損害タルハ言フ俟タズ、労働者唯一ノ目的タル生活ノ途ヲ擲テマデノ決心ハ一様ノ事情ニハアラザルベシコレハ労働者ノ非行ハ勿論ナルモ資本主ノ責亦尠ナカラザルヘシ凡テ人類意思ノ發作ハ喜怒哀樂時ニ觸レ折ニ觸レ良キモ悪キモ因スルモノナレバ森林労働者使役ニ就テモ舊來ノ習慣ヲ急激ニ矯正セントスルトキハ是レ彼等ガ意ニ反スルモノタリ少ナクモ監督者ヲ忌ミ其眼ヲ盜ムコト果シテ幾何ナルカ故ニ余ハ漸次ニ矯正セントスル者ナリ 2 労働者ニ對シテ親切ナラザルヘカラス 人夫使役ニ際シテ最モ大切ナルハ此親切ノ二字ナリ、些細ナル使役者ノ親切ヲモ忘レザル労働者ハ其使役者ノ爲メニ勞ヲ各マザルモノナリ、親切ノ常ニ労働者ヲ服從セシムル事ヲ得ルモノナリ、人ハ感情ノ動物ナリ、労働者ニ惡感情ヲ持タスル

ト否トハ事業上大ナル關係ヲ有スルモノナリ、故ニ親切ヲ以テ労働者ヨリ熱心ヲ購ヒ安心シテ仕事ニ從事セシムルコトハ最モ必要ナリ 3 労働者ノ使役ニ當リテハ公平ヲ期スルコト 仕事ノ難易賃金ノ支給等凡テ公平ヲ旨トシ労働者ヲシテ決シテ惡感情不平等ヲ起サシメサルヘシ 4 意志ノ疎通ヲ圖ルコト 多數ノ労働者ヲ使役スル場合ニ於テハ往々監督者ノ意志ガ多數労働者ニ徹底セサルコトアリ、或ハ労働者ノ意圖カ中途ニ於テ疎隔サレテ監督者ニ通セサル等ノ場合アリテ、其處ニ誤解ヲ生シ事業ノ進行上少ナカラサル錯誤ヲ來シ、延テハ一般ノ成績ニ多大ノ影響ヲ及ボスコト尠ナカラズ、サレド監督者ト労働者トハ相共ニ直接接觸スルノ機會ヲ多クシテ以テ意思ノ疎通ヲ圖ルヘシ 5 各労働者ノ長所短所ヲ明ニシ適材ヲ適所ニ置クコト 時世ノ趨勢ニ伴フ生存競争ノ結果適材ヲ適所ニ用フルト云フコトカ一段事業界ニ唱ヘラル、ニ至レリコレ誠ニ事業經營上ノ一要素タリ、吾人ノ頭腦カ一様ナラザル以上文學ニ哲學ニ法學ニ或ハ林學ニ各々人其長所カアルト同様ニ人夫中ニモ地拵ノ得意ノモノ又植村ニ土工ニ各其仕事中ニ優リタルモノアレバ、使役者タルモ

シハ得意ヲ得意トスル所ニ用ヒザルヘカラス然ルトキハ、人夫トシテ己カ得意トスル所ニ使役セラル、トキハ事業ニ向テ安心ニシテ從テ熱心ニ怒力スヘシ、此レニ反スルトスハ常ニ苦痛ヲ感シ、遂ニ不熱心ニオチ入ルモノナリ 6 事業從事中ノ談笑 如何ニ労働者ト雖モ精神異狀者又ハ白痴ナラザル限り、終日沈黙ヲ守リ事業ヲ繼續シ得ルモノニアラス、故ニ事業功程上差支ナキ限り、不親切ナラザル限り、雜談モ可笑モ歌モ可ナルヘシ、彼等就業中談談ハ歌笑ノ爲メニ多大ノ慰藉ヲ與ヘラレ、而シテ愉快ニ仕事ヲ繼續スルモノナリ、然ルニ此レヲ全ク束縛スルカ如キハ折角働カントスル人夫ニ壓迫ノ念ヲ起サシメ、却テ出役ヲ忌避スルニ至ラザラシムルコトナキニシモアラス 7 人夫ノ指導 労働者ノ仕事ニシテ監督者ノ意ニ適ハサルモノアルトキハ、人夫ノ得心ヲナシ得ル様ニ教ヘサルヘカラス、コレヲナサス不意ニガミ、怒鳴付クルカ如キハ、反テ反抗心ヲ起スコトアルヘシ、可成彼等ノ意ヲ軟ゲテ服役セシムヘシ 8 多數ノ労働者使用ノ場合ハタトヘ少シノ時間ナリト雖モ積ツテスコブル大トナルモノナレバ、監督者ハヨク注意スヘシ 其ノ他賃銀支拂ノ正確ナルコト副産物ノ無料採集或ハ人夫慰安ノ方法ヲ講スル等監督

準備ノ長短、經濟の恐慌ノ有無危險ノ多、少労働ノ快、不快及労働期間ノ斷續季ハ、凡テ労働決定ノ原因タルベシ。
3 労働者ノ功程ニ差等アルコト
此差等ノ生ズルハ労働者ニヨリテ勤勉ノ度才能及人的性質ニ差異アル故ニシテコレニヨリテ賃銀ニ差異アルハ勿論ナリ
4 労働者ノ需要供給ノ關係
労働市價ノ自然ノ現出ニ從テ賃銀ヲ決定スルハ言フ俟タズ
5 他ノ諸生産業トノ労働關係ノ比較
他業ノ労働關係ヲ知リテコレト大ナル懸隔ナキ様均合ヲ保ツコト
而シテ青森大林區署ガ從來採リ來レル賃銀決定法ヲ見ルニ造林人夫等日備拂ニアリテハ人夫技能ノ巧拙勤惰ニヨリ社會ノ生活狀態ヲ酌量シ、又他業トノ労働關係ヲモ比較研究シテ決定セルモノ、如シ、而シテ其手段トシテハ施業者ハ毎年事業施行前ニ當リ中等ノ人夫ヲ標準トシテ一日ノ標準賃銀額ヲ定メコレヲ實行者並ニ組頭ニ豫メ通知シ事業開始ノ當初五日乃至十日間、每人夫ノ賃銀ニ就テ未決定ノ儘就業セシメ、其間ニ實行官吏ヲシテ各人夫ノ技能勤惰ヲ審査セシメ、其成績ヲ以テ組頭トシ協議決定ス、而シテ一旦労働ヲ決定シタル後ト雖モ常ニ其技能勤惰ヲ調査シ、賃銀支拂期毎ニ上下改定スルコトアルガ如シ
又功程拂ニアリテハ施業者ハ從來ノ成績ニ案ジ單位當リ賃金ヲ豫定ス、實行者ハコレ

ニヨリテ仕事ノ難易、仕事ノ功程、其他一般經濟關係、日備拂トノ均合ト等ヲ斟酌シ、組頭ト協議ノ上適宜コレヲ決定スルガ如シ。
造材ノ際ノ木取寸法ハ十四尺又ハ十三尺五寸ヲ標準トシ、十尺、七尺、六尺五寸其他胴本屑木等ハ之レニ依リ難キ場合殊ニ採材セシムル方針ナルモ働モスレバ、操業容易ナルモノニ十尺物ヲ採材セントスル傾向アリ、之レニ對シテハ各長材標準丸太以下各長級ニ對シテ夫々賃率ニ差等ヲ附シタリ
次ニ功程拂賃率決定ニ關係アル事業ノ功程ヲ示セバ次款ノ如シ
第一 伐木造材
青森大林區署ニ於ケル伐木造材功程ハ實行上ノ關係ヨリ常ニ木寄作業迄ヲ含マシメタル一作業ヲ單位トスルガ故ニ他ニ比シ著シク其功程小ニシテ最大八石九二最小四石三〇普通五石五内外ナリトス今大正三年ヨリ三ヶ年間ノ實行結果ヲ見ルニ
大正三年度 五石七四
大正四年度 五石七八
大正五年度 五石六三
平均 五石七二
尙鍛冶谷澤小林區署ニ於テハ伐木造材後直チニ木馬搬出ヲナシ木寄ヲ行ハサルヲ以テ
大正三年度 一七石〇八
大正四年度 一二石〇九
大正五年度 一六石二三
平均 一五石一三

更ニ杓角ニ對スル實行結果ハ三年度二石八、四年度三石〇、五年度二石八、九平均二石九六ナリ
又一石當リ經費ヲ已往ニ於ケル實行平均ニ於テ見ルニ
樹種 材種 伐木造材木寄一石當經費
ヒバ 丸太 〇、一三四
スギ 丸太 〇、一一一
アノマツ 杓角 〇、一七四
ザツ 薪 一、一五六
第二 運搬
一、ハツ橋出、ハツ橋一臺ノ積載量ハ普通二石三四内外ニシテ已往三ヶ年内ノ一人一日平均功程ハ次ノ如シ
百間以上一六石五、三百間以上一七石五、五百間以上一七石七、七百間以上一七石八、一千間以上一七石九、二千間以上一七石九、四千二百五十間二石四七ナリ
三、管流、管流功程ヲ表示スルコト困難ニ屬スルモ已往ノ實行結果ヲ舉グレバ
十八町 一五石〇九 一里一五石四五
一里十八町 一四石三九 二里一四石三五
二里十八町 一四石三二 三里一四石五三
四度十八町 一四石九二 五里一四石〇〇
四、軌道運搬、軌道運搬ニ要スル勞力ハ人

者ノトルベキ途ハ甚ダ多ク、要ハ經濟的ニ精神的ニ彼等ノ意ヲ安ンゼシメ喜ンデ仕事ニ服セシムルニアリ
第四章 勞 銀
第一節 青森大林區署賃銀額管内ニ於ケル
青森大林區署ガ管内八十餘萬町歩ノ森林經營ヲナサシメ、メニ年々百六十五萬人餘ノ森林労働者ヲ要スルコトハ既ニ第二章ニ於テ説述セルガ如シ、而シテ同大林區ガ此等労働者ニ對シ年々支出スベキ賃銀額ヲ示セバ左ノ如シ
第一 施業按
年度 壹年度 壹年度 壹年度 平均
人夫數 三、〇六七 三、〇〇一 三、四四七 三、三六六
勞銀一、九三三、七〇〇 一、七六九、〇〇〇 二、〇七〇、〇〇〇 一、九〇七、〇〇〇
第二 官行斫伐
大正六年度ニ於テ支拂ヘル斫伐人夫賃金ヲ小林區署別ニ示ストキハ次ノ如シ
小林區名 人夫賃金 弘前、八、七〇〇、〇〇〇
青森 三、〇六八、五〇〇 大、鶴、三、〇四一、〇〇〇
内眞部 一、〇八四、九〇〇 野邊地、五、八八三、五〇〇
蟹田 一、八七〇、〇〇〇 横濱 二、三〇八、七〇〇
増川 二、四三三、八〇〇 大畑 一、六八六、〇〇〇
相内 九、二四一、三〇〇 川内 四、五二二、五〇〇
中里 三、一五〇、〇〇〇 左井 三、六九三、五〇〇
喜良市 一、五四六、〇〇〇 盛岡 五、七九三、〇〇〇
深浦 八、四九〇、〇〇〇 盛 四、四三七、七〇〇
鍛冶谷澤 五、六二〇、〇〇〇 合計 二、三六二、二九〇
尙此外定夫給トシテ年々約一萬八千九百

圓ヲ支出ス
第三 製材事業
製材事業ノ爲メ大正六年度ニ支出セル金額(人夫賃)ハ合計八千二百廿九圓八十錢ナリシモ現在ハ之ニ四割ノ手當ヲ加算スル故合シテ二万一千五百廿餘圓ヲ支出スル割合也
第四 森林鐵道及貯木場
大正六年度ニ於テ森林鐵道並ニ貯木場使用人夫賃銀トシテ支拂ヘルハ九千二百八十三圓二十五錢也、此等ニ關シテハ第二章ニ掲ゲン如ク種目別支出金額アルモ茲ニ略ス
第五 造林事業
種別 人夫賃銀
年度 經常部 特別部 計
壹年度 二、三、八、九、〇、〇〇〇 二、八、八、八、〇、〇〇〇 五、二、七、七、〇、〇〇〇
大正年度 二、六、七、七、〇、〇〇〇 二、八、九、九、〇、〇〇〇 五、五、七、六、〇、〇〇〇
平均 二、六、一、七、二、〇〇〇 二、九、六、八、〇、〇〇〇 五、五、八、五、二、〇〇〇
註 表中人夫賃金中ニハ定夫給モ全部包含ス
第六 土木事業
第一章第四ニ述ベシ土木事業大正七年度事業概略表中ヨリ人夫賃ヲ計算スルトキハ四萬七千七百七拾參圓ヲ得ベシ
第七 測定
測定事業ノ爲年々支出スル人夫賃銀ハ大凡千〇三十五圓程ナリ
以上述ヘ來レル人夫賃金ヲ總計セバ實ニ六十七萬九千二百二十九圓四十三錢トナル、即青森大林區ハ管内國有林經營ノ爲メ二年

々約六十八萬圓ノ人夫賃金ヲ支出シツ、アルガ如シ
第二節 勞銀ノ決定並ニ其大サ
第一款 勞銀ノ決定
労働賃銀ノ決定ハ人夫使役上甚重大ナル問題ニシテ一朝此レガ當ラ夫スルカ人夫ハタチマチ不平等ヲ起シ、熱心ヲ欠キ事業實行上大打撃ヲ生ズルモノナリ、サリトテアマリニ高給ヲ支拂フトキハ一般經濟界ニモ影響ヲ及ボシ且資本主ノ經濟上証スヘカラザル所ニシテ此レガ決定ハ實ニ至難ノコトニ屬ス、彼ノ同盟罷工其他ノ労働問題ノ如キ此レ賃銀關係ヨリ起ルコト極メテ多シ
而シテ普通勞銀ノ決定スルニハ次ノ如キ條項ヲ參酌スルヲ以テ最モ適當ト思考ス
1 労働者ノ生活程度
労働者ガ日々労働ニ従事スルノ唯一ノ目的ハ生活ノ途ヲ得ルニアルガ如シ、故ニ如何ニ勉勵事ニ當ルモ其勞銀ニシテ生活ヲ支フルニ足ラザレバ、彼等ハ安心シテ労働ヲ續クルコトヲ得ズ、此ノ故ニ勞銀ノ決定ニ當リテハ彼等労働者ノ生活狀態ヲ審査シ少ナクモ其勞銀ヲ以テ労働者並ニ其家族ヲ養ヒ得ル丈ノ額ナラザルベカラズ、從テ我國ノ人夫賃ハ米價ノ騰落ヲ基準トシテ算定セラルベキコトハ敢テ多辯ヲ要セサル所ナルモ、尙其他一般經濟狀態ヲ參酌スルヲ要ス
2 爲スヘキ業務ノ性質
即労働ノ種類ニヨリテ熟練ヲ要スルヤ否

ヨロト馬ニヨルノ二種アリ馬ニヨルモノハ三臺又ハ三臺ノ貨車ヲ連結シテ一馬力トス  
 貨車一臺ノ積載量ハ既往ノ平均ヲ見ルニ最大量一二石平均量八石七三  
 經費ハ管内ヲ通シ百間ニ付三厘ヲ要スル割合ナリ

第三 木材ノ貯蔵  
 並積ハ第一土場、即、軌道若クハ管流ノ始點ニ於ル土場及保管轉換ヲナスベキモノニアリテハ單ニ長級區分ノミヲ行ヒ第二土場即最終處分箇所ニアリテハ長級及徑級ニ區分シ徑級ハ四寸乃至六寸七寸乃至尺一以上ノ三段ニ分チ別ニ此材ハ別途ノ卷立トシ良並ヲ一括シ夫々並積ヲ行フモノニシテ其功程及經費ハ次ノ如シ

年 度	各小林區署青森貯木場 一人日功程	一人月功程
大正三年度	二〇、〇三	三六、〇三
大正四年度	二〇、〇二	三九、七三
大正五年度	二二、二五	三三、九四
平均	二〇、〇八	三六、三八
平均石當經費	〇、〇三	〇、〇二

第三款 勞銀ノ大サ  
 前述セルガ如キ方法ニヨリテ決定セル勞銀ノ大サモ時ニヨリ場所ニヨリテ非常ナ差異ヲ有スルモノニシテ、此レヲ一概ニ論ズルコトヲ得ズ  
 今、青森大林區署ノ大正四年度ニ於ケル功程拂ヒノ實行セルモノニ付單位當リ賃金ヲ

示セバ次ノ如シ

材種別	一石當賃金
1 前更作業	〇、〇六五
2 皆伐作業	〇、〇四五
3 寄	〇、〇七〇
4 前更作業	〇、〇七〇
5 皆伐作業	〇、〇四五
6 寄	〇、〇七〇

1 前更作業ヒバ距離三〇〇間石、〇、〇六〇、木馬出

2 前更作業ヒバ距離二〇〇間、〇、〇七〇、ホ軌道、距離五、〇〇〇間、〇、〇九九

3 皆伐作業全、六〇〇間、〇、〇七九

4 寄立、〇、〇一六乃至〇、〇三二

5 大正三、四、五年度ニ於ケル研伐作業人夫一人一日當リ平均賃金ヲ示セバ次ノ如シ

大正三年度 六十二錢二厘

大正四年度 六十錢三厘

大正五年度 六十一錢八厘

平均 六十一錢四厘

尙大正六年度ニ就テ青森大林區署ガ調査セラル各種事業官役人夫賃金並ニ管内農工勞役夫賃金調ベラ擧グレバ次表ノ如シ

註賃金ハ凡テ管内各小林區署ニテ調査セラルモノ、平均額ヲ示ス

研伐事業 (大正六年)

米	最高	最低	平均
米	二九、五七	二二、四五	〇、八七九
米	二九、五七	二二、四五	〇、八七九

管內農工勞役夫賃金調 (大正六年中)

農作夫	大木	左石	指物	船桶	根	下	車製	鍛冶	炭製	漁	雜役
男一女	工挽	官工	工物	工大	職	職	職	職	職	職	職
男一女	〇、五五	〇、三六	〇、五二	〇、四七	〇、五五	〇、四六	〇、四七	〇、四七	〇、四七	〇、三六	〇、三八

隨筆

溫帶林雜談

机上漫遊生

溫帶の森林には緯度又は地盤の高い所では主として針葉樹、低い所では主に落葉枯葉樹が存在して居る  
 溫帶林を道常夏季の平均温度が五十度以上で雨量も比較的多く土壤や其の他の條件も可なり植物生育に適して居る所に存在して居る現今に於て智利の南部や北米の北部太平洋岸等の如き大陸西岸の雨量多き地方乃至は北米及西伯利亞の内地の大部分又はスカンデナヴィアの高原等には其の特徴を示す森林が存在して居る  
 大森林帯は北方には散點せる喬木萎縮せる樺木などの生ぜる地域を経て苔原(ツンドラ)に終を告げ南方にては大陸内部の草原地方に及んで居る  
 乾燥に過ぐる所を除いては溫帶の大部分は元森林を以て蔽はれて居つたが樹木は漸次伐倒せられて開拓せられ開闢なる土地を生じ農耕地に利用せられ乃至は近代隆盛を極むる製造工業地となつたのである  
 大森林帯の南部は北部に比し氣候の好適なる爲一層多く農地として用われ且其開拓せらるゝことも従つて早かつた、此の狀態は現今に於ても目撃し得ることが出来る  
 北部は氣候比較的寒冷且開墾成功の見込少き爲農夫の侵略を免れて獵師や樵夫が昔な

がらの生活を持続して居る  
 人類の移動を羈束して住民の過密となるを制し又開拓しては二層有利なる農耕地となし得る此の溫帶林を漸次蠶食せられ現歐洲に於ては平地より山地へ追ひつけられ今や僅に散點して存するの狀態である、それも多くは政府の保護を受けて居る  
 北米合衆國に於ても同様の開拓が行はれて同様の結果に向ひつゝ、ある、山地に現存する森林の多くは水源涵養の爲又は將來公園造成の見込で國有林として存置されて居るのである  
 北米合衆國に於て最初より森林に蔽はれ且永い間其の狀態を續けて居た東部地方から開闢な西部地方へ白色人種の住居がることの遅かつた原因の一部は、最初の移住者が大西洋岸に於て發見した森林を開拓することゝ非常に困難であつたからである  
 然し人口の増加、森林開拓法の改良、運搬設備の完備等の爲、其の困難に漸次打ち勝つことが出来たのである  
 以上の記述より直ちに開闢なる地域を總て元森林を以て蔽はれて居つたものであると速断し又森林の開拓が必しも氣候の變化を生ぜしむるものと想像してはならぬ、地中海沿岸の亞熱帶及南部阿弗利加に於て其等の例證を見ることが出来る、一体亞熱帶の氣候は乾燥に失し降雨少く大森林の繁茂に適して居ない、古代希臘で最價値ある木材を北方から輸入したことは大に注目すべき

ことである  
 土壤と氣候との力によつて生じた天然產物なる森林——此の森林の開拓せられる迄は住民は毛獸を狩り魚介を漁り又は木材伐出に従事して居るのが常である  
 木材運搬は北國では冬季積雪の爲非常に便宜を受けて居る、即ち寒中には輸出が容易で春季融雪の折には其の出水を利用して木材を製材所へ運ぶことが出来る、此の積雪のない所では木材搬出に要する費用と  
 とは大したものである  
 樵夫等の生活は極めて原始的な且粗野なもので水草を逐うて轉々した遊牧時代の遺風が大部残つて居る  
 北方溫帶の多數の人々が一年中の或る期間森林に集合して獵漁をすることは暫時の間文明と云ふもの、檢束から脱して慰安を得又更に原始的な生活狀態にかへることに生ずる大なる慰藉を得居る  
 合衆國北部及如奈太の樵夫は季節により種々の變つた職業に従事して居る、就中夏季には農夫又は水夫として生活して居る者が多い  
 木材を原料とする工業例へば紙、パルプ、船舶、家具、車輛、樽等の製作所は屢木材搬出の要路に當る河川の下流に建設せらるゝことのあるのは當然のことである  
 米國森林に於ける初期の移住者の造つた單純な丸太小屋は森林内住宅の最標本的のものである

木と竹とを以て作る日本の住宅は木竹の豊富な氣候の變化の甚しくない且地震の多い日本には最適なものである。森林火災は獨り林木のみならず林中の木造家屋に對しても破壊者である。森林住民の常食は鳥獸魚介である、衣服は主に毛革等である、林産物は之を販賣又は交換する爲林椽へ搬出せられる。北米に於て古代歴史の重きをなして居るものは罌を以て鳥獸を捕へた森の人々である。元移住地といへば單に交易の場所であつたが漸次流域に沿ふて擴大し遂に町となり市となつたのである。北米合衆國太平洋岸の殆ど總ての大都市が其の隆盛を來した所以は木材工藝によるものである、此の事實たるやロッキーマウンテンの森林地方及其の附近の都市に就ても全様である。温度は低けれ共濕氣の好適なる爲鬱蒼として遙かの北方迄繁茂して居る彼のアラスカの海岸林は今日其の森林の周縁に住居せる土人(印度種族)に著しき影響を與へて居る、植物の密生及農耕の困難は彼等をして海に赴かしめ其所に大部分の時間を費し其上を旅行し其所が彼等の食糧を採取せざるを得ざらしめて居る、彼等は丸木船を造るに長じ航海に長じ漁業に長じ身体は上殊に發達して居る、然し余りに船中の生活のみをなしたる結果彼等は遂に歩くことを嫌ひ獵師搬夫等としては極めて拙劣なるも

のとなつてしまつた、彼等の食物及器具器械の材料の大部分は海中から採取して居る彼等は稍遊牧の民の如き生活をなして漁場より漁場へと移轉し甚しい遠方に迄到ることがある。最も堅固なる船は暴風の強い地方に住つて居る土人の手に作られ而して此等の人々は又最良の舟人であるきは興味ある事實である。南部智利の海岸に於ては鬱林は海に接して多大の住民を抱擁し、開拓困難なる結果として主なる職業は伐木狩獵及漁業である、ダーウインは此地方は常に降雨ある爲凡てが濕潤で火の力で森林を開拓することは殆ど不可能であると云いて居る。

西都より(三)

近年地方農村は、米價の騰貴や繭價の好況で素晴らしい景氣、中農以上の所謂資産階級では、金の運用に困つてか、段々放資熱が高し、株券等に對しては一層熾烈だとか、從て好景氣に乗じて田畑を高價に賣拂ひ、株券にしておくのは、採算上から來た利殖の方法で、豊凶ある土地よりは確實な有價證券の方が、利廻りがよいからである。此の地方の山林地も、この例に洩れず、段々と他國の者に買収せられて行く、こんな調子で、農耕能率が低下し、一方眞に土地を愛して、土地から恒久的な生産を擧げて行く人達が耗り、土地が單なる賣買の對象となつて行くといふ事は、經世家の爲には由々しい問題である。最近住宅問題につれ、雨後の筍の如く創立せられる土地會社の如きも、殆んど總てが結局權利の賣買に終るやうだ、社政策を喰物にするといふ點からして、恐らくこれらが、實際の最たるものであらう。この地方では森林労働者を「山師」と概稱する、森林労働者の名稱も、各地様々でおもしろいものだ。木曾御料林風の、所謂武田式軍法に基いた、總頭、代人、役人、庄屋山庄屋といふやうな、幹部の大夫をこの地方では一様に「山頭」と言つてゐる。赴任當初は、單にせんとどうと聽くと、船頭を連想し「船頭多くして船山に登る」の俚諺も思はれたが、今ではもう慣れて「オ、何々山頭」など、呼ぶやうになつた。元來「山師」だとか「大山師」だとか云つて、イカサマ師や投機家を斯く呼ぶ、延びて從來林業家を目して山師だといふ辭の裏には、林業が非常にマヨロ的であり、冒險的企業であるとの舊慣に依る解釋が、潜んでゐたが、戦後の平和事業として農林業が次第に囑目せられ、各地に斯の種の會社が組織せられ、その健實さを發揮するやうになつたのは、林業界の爲慶賀に堪へぬ。師といふ字も段々で、教師、技師、理髮師、屋根師、塗師、機械師、山師など、あるが、山師といふ一群が、無頼不逞の徒輩

の代名詞として、地方に行使せられてゐるといふ事は、欺はしい事實である。労働者の素質改善といふ事は、近時世界的に論議せられる、労働運動、労働問題の進展上、先以て攻究すべきところである。日本の現在労働界に於て、森林労働者はこの素質と能率の二大眼目から略して、果して奈何の價値を評定せらるゝであらう、所謂「酔僕といふ事は時に魯鈍に近く從順といふ事が往々無智と相距る事遠からぬ事がある。外業の休憩時に、仰向に寝そべつて晴れた空を仰ぐと、さなさに足の早い秋の雲が斷續して飛ぶ、そのさざざと雲の形、兒供の頃、地味で覺へた、赤潭に似た北海道、龍の昇天に似た本州、蝙蝠の飛ぶが如き四國、猿の立つて舞ふが如き九州、と瞬時に現識する、時に英吉利に似た處、亞弗利加大陸に似た處、南米北米、東亞、北歐、と世界の地圖を讀む心地がある。「英京チームスの橋架を濯めし水、流れて東海の濱に打寄す」とは過ぎし時代の、書生輩の大言壯語の一節ではあつたが、今では儼然たる事實である。否、帝都隅田川の濁水がめぐつてチームスの橋上人馬の織るが如きを見上げるものである。思潮に疆域なく、物資は國境を超へ世界は文化的にも經濟的にも愈々共通になりかけた。あらゆる事物、あらゆる方面に、企圖せられつゝ、ある「改造の勢力」は驚くべき速力で進行しつゝ、ある、我々は奈何にし

て時代に後れないやうにすべきか?といふ事に腦む。たゞこの際、半可通な思想家や、上走りの場當りに識者が立廻る事をおそれる。衆愚を指導すべき、少數の賢人は徹底した賢人であつて欲しい。思想や生活の著しい動搖期の此際、善良なる指導者の出現を要望して息まぬのである。秋になつた、黒川の奥の楓葉を繞つて實習にいそしむ、在校諸君の事を偲び、現に我々の從事してゐる事が、その時代の延長したものであるといふ事を考へると、連鎖的に追憶が次から次へと兆す。我々の植へた檜と銀杏の混設林は、定めし美しいであらう。校庭へ植へた、櫻植は、もう握るにあまるであらう。一九一九、九、三〇

關東の旅(續) 秋水生

名殘惜しくも鎌倉を辭して又車上の人となつた、今流車は一瞬千里の勢で東京へと向ひ、我等の心も亦花の都へと急ぐのであつた。本邦唯一の貿易港たる横浜も既に後にした、流石は横濱だ幾百とも數知れぬ百千の船の橋は遠く林立しつゝ、霞の奥へと消へてゐる、流車は装置の立派な大きな電車と競争しつゝ、品川も過ぎて愈々久しく吾々の脳裡に描かれてゐた東京市内へと近づき走り込み、やがて最新式の中央ステーションにて吐き出された、東洋第一の建造物東京驛は先づ吾々の目を驚かし、唯啞然たるを得なかつた。ブーと鳴らしつゝ、走る自動車の響きは實に素晴らしいものだ、吾々は先づ宮城へと急いだ。廣く引き敷かれた小石の大廣場には塵一つない二重橋より皇居を拜しつゝ、自ら襟を正し一種無限の感に打たれた一同此處で整列して合掌九拜した、實に貴く有難く聖代の無窮を祈つた、之より松の間に屹然と立つた甲冑姿の楠公銅像を見て建武の昔を偲び將來幾萬年の後までも此銅像と共に菊水の香は傳はらんと思ふた、それより一同は電車で上野驛前井筒屋へと向つた時既に五時明れば十七日天氣は晴朗で見物日利とでも云へさうな天氣であつた、一同朝飯もそこへ、目黒を指して電車へと飛び込んだ、流石は帝都の電車如何に早朝なりと云へども車中は紳士や學生で大雜沓を極めて居る、乗客の袖の隙からは唯何々株式會社向々商店と云ふ様な文字が目に入るのみであつた車か止つた吾々は既に目黒停留場前の人であつた。之より寂しい町の中を斜にさして來る武藏野の陽光を浴びながらさんざ歩いて愈々林業試験所の前に出た緑濃の芝生にせばめられた小石の道の奥に鬱蒼たる内外の珍樹に蔽はれて試験場の建物があつた來意を告げると中から頭の禿げた一老紳士が出て此の紳士に従いて標本室へ入つた、室内には種

々の木製品や種子が奇麗に飾られてあつて... 林業の範圍の廣い事と學ぶべき事の限りな... 事に深く驚嘆せしめた此處で二人の見た... 先輩古畑君と相變らずの愛嬌であつた。

の事ゆえ市中は昨日に倍して賑やかであつ... 今日朝から自由行動を許され先づ帝室博... 物館へと向つた。清い公園の奥薄い緑に蔽... されて古風の門が立つてゐる。是を我が昔... 語る帝室博物館であつた。門口に入ると

美麗なる思はず時の移るを忘れた。 通 信 滿洲鄭家屯より 米山芳郎 拜呈時下酷暑の初、校長先生始め諸先生に... 御多祥の段奉大賀候生儀五月中旬より當... 地鄭家屯に在勤を命せられ無事勤務致し居... 候間乍憚御休心下され度候渡滿後色々事... に紛れ御無音に打過ぎ申譯無之候

收及土地に關する登記事務を取扱ふのみに... 一般の行政及司法は皆支那官吏が專掌致... し居り候人口は支那には戸籍など無き故除... り當にもならず候へ共、四五万有之由に候

員朝鮮銀行員のみ特別を以つて取扱ひ申候... (支那ハガキ及三錢切手は今の支那の金の... 相場高き故日本錢の二錢五厘及五錢位に當... り候)次に鄭家屯に集致す商品の主なる

赤坂より 小澤安親 謹呈 殘暑猶難凌の候校長先生始め諸先生益々御... 多祥の段大慶至極に御座候行軍に演習に專... 日なきは軍隊にて候三伏の夏も炎熱を避く... る樹蔭もなく渴を醫する冷水もなく此の一

仕候酷暑と塵埃の中にて連日連夜の教練睡  
眠時間平均四時間例の洒保通ひすら儘なら  
ず可憐一匹の男も奔馬の疲れに眼窪み色黒  
み申し候大隊教練には機關銃も参加し想定  
も行動も實戦らしく相成り漸く「兵隊ごつ  
こ」の域を脱し候、晝間夜間の教練も好成  
績にて茲に無事檢閲を了し候尙夜間行軍の  
檢閲有之十八基を三日間連續にて候ひき路  
傍に設けられたる水槽の水と青田を渡る風  
とは實に行軍間の生命にて候聯隊にての落  
伍者實に三十名近く有之候ひし由なれど幸  
我が中隊には一名もなく中隊長殿得意の様  
も覗はれ候、伍長の階級に進みてより下士  
室を與へられ中隊の志願兵は全部一室に會  
し毎日茶目を發揮致し居り候同日に入營せ  
し者共は猶庭掃除に食事番に雜役に使役せ  
られ居るに吾等は食事まで運ばせ教練場に  
ては分隊長を承り外出は點呼時限まで候  
事「大した御出世也」と大笑ひ致し居り候  
嘗て入營當時三百日祭とて除隊まで三百日  
也とて祝盃を擧げて教官殿より大目玉頂戴  
仕り候を令指を屈すれば九十日に足らず候  
殘るは隨時檢閲と機動演習のみに候へば屬  
精一番有終の美を全う致し度く存候時節柄  
御自愛の程祈り上げ候頓首 九月二日

彙報

會 員 異 動  
○丸山久雄君 郡下王瀧村帝林局出張所勤

務伐木掛に轉任せらる  
○中村豊治君 福島縣相馬郡原町小林區署  
へ轉任せらる

○小谷益實君 福島縣相馬郡玉野村原町小  
林區署東玉野保護區官舎に轉せらる

○長坂清人君 石川縣金澤市第四高等學校  
に轉せらる

○南勝右衛門君 朝鮮江原道華川郡山陽  
里に轉居せらる

○伊藤門次先生 朝鮮總督府農商工部山林  
課技師に任せらる

○村上英勇君 三重縣南牟婁郡御船村鮎田  
藤田組貯木場に轉せらる

○川岸滋次郎君 北海道石狩國久原鑛業邊  
溪炭礦に轉せらる

○田中榮一君 北海道石狩國空知郡芦別村  
に轉居せらる

○岡田恒治君 山形縣廳林務課へ轉任せら  
る住居同縣山形市長源寺町佐藤くら子方  
地に轉居せらる

○木下稔君 橫濱市花咲町七丁目八十四番  
地に轉居せらる

○小林右内君 松本歩兵五十聯隊第九中隊  
に入隊せらる

○七宮校長先生 病氣御辭養の爲宮城縣志  
田郡三本木町(御郷里)へ轉地せらる

○佐藤先生 上伊那郡立實科女學校教諭に  
任せられ同地へ赴任せらる

雜報

十月十七日 郡下小學校の選手を集め庭球  
大會を催す會するもの五校優勝旗は神坂  
小學校選手の得る所となる  
十月十九日 第三十九回運動會を舉行す  
各級選手リレーレースは二年優勝し一年  
二年の順 高等小學校選手競走に於ては

優勝旗は大桑小學校に得られ尋常小學校  
選手競走には福島小學校優勝す、例年の  
呼物たる變裝行列は特に上出来にて喝采  
を博したり

七宮先生謝恩金募集廣告

拜啓陳者秋冷之候各位益々御健勝の段奉  
大賀候 扱て永年の間當校教諭として又  
校長として子弟訓育の爲御盡瘁被下候ひ  
し七宮先生には今般御病氣の爲退職  
致さること相成候に就ては此際謝恩金を  
募集し金時計 個を購入の上贈呈し聊か  
先生の勞に酬ひ度と存候間左記御諒知の  
上應分の御寄贈に預り度此段得貴意候也  
一、送金は可成振替を利用せられ東京一七  
六〇番木曾山林學校宛に願上候  
二、若し郵便爲替にて送らる、場合には山  
林學校内中村三郎宛に  
三、締切期日は十二月末日  
四、領收證は不差上林友誌上にて御報申上  
候  
大正八年十月 校 友 會

卒業生各位

會員諸君に謹告

豫て大方の御贊同を得たる宮川先生の謝恩  
金は九月末日締切り贈呈仕候間左様御諒知  
被下度候  
大正八年十月 校 友 會

校友會へ寄附 七宮校長病氣御辭養の爲  
御郷里へ出發せらるるに際し左の通り  
校友會へ御寄附ありたり

校友會へ寄附 佐藤先生上伊那實科女學  
校へ御轉任の際左記の通り校友會へ御寄  
附ありたり

金參圓  
林友誌代領收報告

金壹圓五拾錢  
富士川金二名  
矢島 穰君

長野縣西筑摩郡碓氷町四〇四番地  
長野縣松本市小柳町八十五番地